

朝来市商工会

被災児童を励まそう

宮城・山元町
4小学校に

カブトムシ幼虫寄贈

東日本大震災で被災した宮城県山元町の児童たちを元気づけようと、朝来市商工会の女性経営者らが同市内で育ったカブトムシの幼虫約300匹を同町内の全4小学校に届けた。

同市は同町と大規模災害時相互応援協定を結んでおり、応援職員を派遣している。幼虫を寄贈したのは同市商工会の女性部(約120人)。義援金とは異なる支援を模索

していたところ、メンバーの一人からカブトムシを贈る提案があり、同市和田山町竹田の畜産資材は各地の子どもたちに無

連送業「コバヤシ産業」の協力を得て実現した。同社の小林博会長(71)



カブトムシの幼虫を飼育ケースに入れる女性ら
―朝来市和田山町竹田(同市商工会提供)

償で幼虫を贈ったり、育て方を伝授したりする「カブトムシ名人」として知られる。このほど同社で発送作業があり、女性ら12人が参加。小林さんの助言を受けながら、飼育ケース計101個に特製の資材を敷き、各ケースに3匹ずつ幼虫を入れ、育てるポイントをまとめた冊子を同封した。順調に育てば7月初めには成虫になるという。同部は「成長の過程を教室で楽しんでもらえたら」と話している。

(竹本拓也)